

あなたが、失明するとしたら
最後に見たいものは何ですか

解げ 夏げ



大沢たかお 石田ゆり子

富司純子・林 隆三 田辺誠一 古田新太 鴻上尚史 石野真子 渡辺えり子 柄本 明・松村達雄

原作／さだまさし(幻冬舎刊) 脚本・監督／磯村一路 音楽／渡辺俊幸

製作／亀山千広 見城 徹 島谷能成 遠谷信幸 榎井省志 エグゼクティブプロデューサー／関 一由 小玉圭太 船野晴彦 プロデューサー／関口大輔 瀬川泳り 佐々木芳野
撮影／柴主高秀 照明／豊見山明良 美術／小澤秀高 録音／横溝正俊 編集／菊池純一 助監督／山口晃二 製作担当／毛利達也
製作プロダクション／アルタミラビクチャーズ 製作／フジテレビ 幻冬舎 東宝 電通 アルタミラビクチャーズ 配給／東宝

主題歌／「たいせつなひと」さだまさし(ワグネル)

第16回 東京国際映画祭 特別招待作品 www.gege.jp

その日、すべてが消える。そして、始まる。

あなたの目に、記憶の中に、 「たいせつなひと」は映っていますか？

舞台は坂のまち、長崎——。

町を見おろす墓地、オランダ坂、中華街、そして海の青さ。視力を失ってゆく主人公・隆之は最後の光を目に焼き付けるため、この美しい故郷を巡ってゆきます。

長崎にいる現在、半年前の充実した教師としての生活、そして幼い頃の思い出と、時間が交差する中、失明に怯える隆之は惨めなまでに苦悩します。けれども、恋人、母親、友人、教え子、そして偶然出会う人々が、苦しむ彼を必死に支えようとしてくれるのです。

乗り越えられそうにない苦難に直面したとき、人はどうあろうとするのか——。輝きの中に色濃く落ちる陰。暗闇の淵に立った時に見いだす一筋の光。人生という光と陰の道を、愛するものとともに一歩ずつ進んでゆこうとする「ひと」の強さ、健気さが静かな映像の中で胸に迫ります。

失明に向かう焦燥とその後を訪れる達観という複雑な内面の主人公・隆之を演じたのは、話題作への主演が相次ぎ充実著しい大沢たかお。そして隆之を優しく強く支える恋人に、デビュー以来その凛とした清らかさが色褪せない石田ゆり子。息子とその恋人の境遇に自らも苦悩しながら温かく見守る母親に、毅然とした風格をみせる大女優・富司純子。さらに、松村達雄、林隆三、田辺誠一、渡辺えり子、柄本明ら日本映画界を支える主役格が脳を固めるという贅沢なキャストिंगが実現しました。

原作は「北の国から」のテーマなど国民的スタンダードナンバーを数多く生み出し続けてきたさだまさしが新たな天分を開花させた同名小説。20年以上暖めたという、著者の思いが込められた、珠玉の物語です。本作のために書き下ろした主題歌「たいせつなひと」のメロディが温かい涙を誘います。脚本・監督は「がんばっていきまっしょい」の磯村一路。人の営みの底に変わらずに流れる優しさ、気高さを端正な美しい作風で描く実力派です。音楽はNHK「利家とまつ」「大地の子」映画「サトラレ」など、日本を代表する作曲家・渡辺俊幸。切なく美しいサウンドトラックがいつまでも心に残ることでしょう。

希望に向かう感動のラストを、あなたの「たいせつなひと」と。

この夏が終わるころ、 僕は失明する。



【解夏】かつて禅の修行僧は乾季に各地を行脚し、雨季には庵に集まり雨安居(うあんご)という厳しい修行を行った。夏の終りにこの行を終え、この間に犯した誤りを互いに懺悔し合い、再び旅立つ日のことを解夏という。

【STORY】

すべてが白い霧に包まれた時、
哀しみと、安らぎと、
永遠に失われることのない君の微笑があった。

東京で小学校の教師をしていた隆之(大沢たかお)は、視力を徐々に失っていく病に冒され、職を辞し、母・聡子(富司純子)が住む故郷の長崎に

帰った。懐かしい町を目に焼き付けようと日々歩く隆之のもとに、東京に残した恋人の陽子(石田ゆり子)がやってくる。陽子の将来を憂い、この先の人生を思い悩む隆之。そんな隆之を笑顔で支えようとする陽子。そして、二人を静かに見守る聡子。

ある日二人は訪れた寺で林(松村達雄)という老人に出会う。林の暖かい人柄に触れ、自らの病気を告白した隆之に、林は「解夏」の話を始める。



ヴァージンネマズ泉北(クロスモール)
〒590-0132 大阪府堺市原山台5-9-1
TEL. 072-295-4848